

港南防災 ネットワーク

平成26年
5月号

春の防災訓練

二十年ぶりの大雪に見舞われた冬も過ぎ、桜の季節を迎えようとしています。

二〇一一年の東日本大震災からまる三年。三月一日を挟んで港南地域の各自治会・防災会・管理組合ごとに、そして港南防災ネットワークを含めて多くの団体で、防災訓練や防災講習会が行われました。

それぞれの組織の活動の様子をご紹介します。

【防災講演会】

【関心高いマンション防災】

二月一六日 日曜日

さんぽーと港南で「マンション防災の課題と計画」と題して防災講演会が開催され、二六名が参加しました。



(防災講演会)

講演では吉川忠寛氏(防災都市計画研究所)が「生活継続のための防災計画づくり」について、自らが基本であるが、安否確認や緊急対策などの共助の範囲をどう設定するか基本的な対策の方向性を示すことが大切であると話されました。

講演会終了後、熱心に質問する参加者に、防災に対する関心の高さを感じた講演会でした。

(文責 南)

【防災ネットワーク・

参集訓練】

三月二日 日曜日

今年の港南防災ネットワークの参集訓練は、三月二日(日)午前九時から、芝浦港南地区総合支所協働推進課の協力を得て、地域防災拠点における物資仕分訓練をメインテーマに、さんぽーと港南の多目的室で行いました。

今までは、地域防災拠点の機能のうち、①避難所の運営②情報集約・発信の二つの訓練を行ってきましたが、今回は三つ目の柱である物資仕分訓練を行ったもので、港区では初の試みとなりました。

また、阪神淡路大震災の経験を活かして開発されたクロスロード(分岐点)と呼ばれるいくつかの想定される状態の中で、四択ほどの選択肢のどれを選択するのか?という災害シミュレーションゲームも実施しました。

震度6強の地震発災四日後を想定し、地域防災拠点に届いた物資を、どのように仕分けし配給したら良いのか、4班約8人ずつに分かれて討議しました。



(災害シミュレーションゲーム)

討議では、帰宅困難者が支援拠点に助けを求めに訪れた時の対応の仕方や大規模マンションからの支援物資の要請があった場合の対応など非常に難しい問題について様々な意見が出され、最後に各班の代表が研究発表を行い、有意義な勉強会となりました。

今回の訓練の結論としては、防災マニュアル、ルール作りが大切であるということで、皆さんの意見が一致しました。(文責 飯塚)

【港南三丁目合同自衛消防訓練】

港南三丁目第二公団自治会とシティハイツ港南自治会では、隣接する港南の郷と港南図書館と一体となって、年一回、自衛消防訓練を行っています。

今年三月十六日(日)に実施しましたが、好天気に恵まれて出かけた方が多いのか、例年より少ない八十人程の参加でした。

港南の郷南側広場では、通報訓練や消火器訓練、煙ハウスの体験のほか、今回初めて備蓄倉庫に保管してある災害用トイレの組立訓練を行った後、集会所に移り、AED操作を体験しました。



(AEDの操作体験)

このような訓練は身体で覚えることが大切なので、これからも年に一回は継続して実施していきたいと思います。熱心に指導頂いた高輪消防署港南出張所と高輪消防団第四分団の皆さん、ありがとうございました。

(文責 南第二公民自治会長)

【港南ふれあい桜祭り】

四月七日 日曜日

不安定な天気を心配しながらも大勢の人々が、満開の桜の下に集まりました。

港南小学校鼓笛隊の演奏で開幕。港南中学校や地域の皆さんが得意の演奏を披露すると、どこからともなく歓声がわいて周囲が桜色に染まったようでした。防災ネットワークが販売する「豚汁」も好評のうちに完売となり、パネルでの活動展示にも関心を持って立ち止まる光景も見られて、防災への意識啓発にも繋がった桜祭りでした。(文責 南)



(港南ふれあい桜祭りでの防災パネル展示)

【ワールドシティタワー春の防災訓練】

四月十三日 日曜日

今回の訓練では、通常の安否確認に加えて、大地震で停電になった時にタワーマンションで発生する事態を正しく理解して頂き、各家庭で備えを考えて貰える様、一週間前から防災週間と称して、E.V.内に想定事態を三種のポスターにして順次掲示を行った。

その他、AED講習・おがくすトイレ、子供向けに防災ビンゴ、芋煮炊き出し配給、野菜マルシェ、防災備品の展示販売などのイベントを行った結果、総世帯数の五十七%にあたる千百八十世帯の参加が得られた。(ワールドシティタワー防災会会長 吉村誠)

【港南中学 防災運河めぐり】

四月十六日 水曜日

初夏を感じる四月十六日(水)、港南中学校防災教育の一環として新一年生八十七名を対象に「防災運河めぐり」が実施され、港南防災ネットワークのメンバーが説明員を務めました。

当日は、新港南橋防災船着場で

クラスごとに三便に分かれて乗船し、高浜運河から天王洲運河へ。



(防災運河めぐりの水門)

八つの橋と二つの水門をくぐりながら、水門の役割や、災害時には運河を利用して海上からの災害物資輸送も可能なことなど、防災の視点から港南地域を学習できました。(文責 関根)

【訃報】

三月十六日、高輪消防署港南出張所の石鍋所長が急逝されました。長年にわたり、港南地域住民の安心安全のために、ご尽力賜ったことに感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

《編集発行》

港南防災ネットワーク

会長 飯塚 則男